

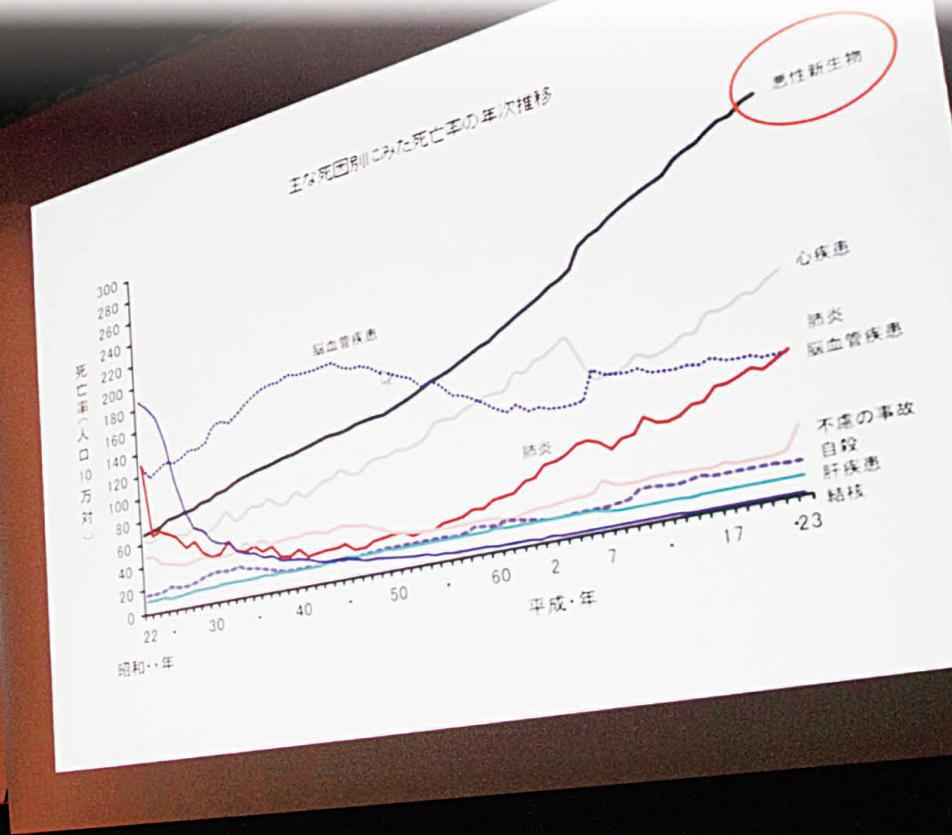
カトレア

Cattleya

2016 Autumn

106
平成28年

川内市医師会立市民病院



平成28年9月10日 第4回市民公開講座

CONTENTS

- 特集Ⅰ 第4回市民公開講座**
- 特集Ⅱ コンシェルジュ・患者送迎バス
アンケート結果**
- 特集Ⅲ MRI装置導入6ヶ月経過して
新人紹介／ひまわり／NEWS
身体に優しい健康レシピ
リレーエッセイ**

基本理念

私たちは、地域の中核病院として、急性期医療を推進し、
安全で信頼される医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、信頼され満足される医療を目指します。
2. 質の高い急性期医療を推進し、高次救急医療の確立を目指します。
3. 地域の医療関係機関と連携し、地域社会に貢献します。
4. 職員が互いに尊重しあう職場作りをめざし、チーム医療の充実に努めます。

患者さんの権利

1. 良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 自分の病気について納得するまで十分な説明を受け、
その上で検査や治療を選択すると共に
医療機関を決定する権利があります。
3. 個人の情報は保護される権利があります。
4. 自分の診療内容について知る権利があります。

市民公開講座

第1部『がんとともに生きる』



講師紹介

NPO法人がんサポートかごしま
理事長

三好 綾先生

鹿児島県生まれ・長崎大学教育学部卒業

塾講師、P C インストラクターを経て乳がん体験者の方会「つどいいすみ」副会長、N P O 法人ピンクリボンかごしま事務局長を経て現在N P O 法人がんサポートかごしま理事長

第2期・厚生労働省「がん対策推進協議会」委員、鹿児島県「がん対策推進協議会」委員

一般社団法人全国がん患者団体連合会事務局長

種子島在住27歳の時、8ヶ月の息子さんの授乳中にしこりを発見。マンモグラフィ検診で乳がんであることを告知され、右胸全摘出手術を受けられました。手術後の抗がん剤治療を乗り越えてピンクリボン活動やがん患者サロン、遺族会・課外サロンなど幅広く活動され、また2010年より「いのちの授業」を約6000名の小中学生を対象に実施されました。

この乳がんの体験やがん患者さん、ご家族のケアに従事してきた体験をもとにご講演いただきました。

- ・あなたがもし「がん」になったら何を思うでしょうか？
- ・出会いが教えてくれたこと
- ・どんなときでも、命は輝く
- ・あなたは、どんな風に生きりますか？



市民公開講座

第2部 『知っておきたい胃がんのはなし』



講師紹介

川内市医師会立市民病院
外科医長

中薗俊博先生

講演内容

- ・『がん』って何？
- ・どの部位のがんの罹患が多いの？
- ・どの部位のがんの死亡が多いの？
- ・胃がんとはどのような病気ですか？
- ・胃がんの病期（ステージ）と治療方針について
- ・どのような検査で胃がんと診断されるのですか？
- ・胃がんの治療
- ・手術後の薬物療法について
- ・再発とはどのような状態のことですか？
- ・切除不能がんや再発がんの治療について
- ・薬物療法ではどのような副作用がいつごろ現れますか？
- ・胃がん発生の原因



平成14年鹿児島大学医学部卒業
同年5月鹿児島大学医学部附属病院第2外科入局
その後鹿児島市立病院、鹿児島市医師会病院など各地の中核病院において研鑽を積んでいる。
平成26年10月より当院外科医長に着任。研修医時代を含めて当院の勤務は3回目。

[専門医]・日本外科学会専門医
[所属学会]・日本外科学会・日本消化器外科学会
・日本内視鏡外科学会・日本臨床外科学会



市民公開講座 相談コーナー

がんに関する相談コーナー

臨床心理士 椿本省吾

9月10日に開催された市民公開講座の相談コーナーを担当しました。地域のたくさんの方々にきていただきました。私のような心理士以外にも、薬剤師、看護師、リハビリ、栄養士などの専門のスタッフが、相談の内容に応じて対応させてもらいました。多くの相談、ありがとうございました。



公開講座は二部構成で、第一部ではNPO法人がんサポートかごしまの理事長三好綾先生による「がんとともに生きる」の講座がありました。乳がんを発症してからの気持ちや家族のこと、がん闘病中の友人とのやりとりなど、がんになってからの体験を話してくださいり、当事者の気持ちをリアルに感じることができました。第二部では川内市医師会立市民病院の外科医長中薗俊博先生による「知っておきたい胃がんのはなし」の講座がありました。がんという病気は知っていても、実際どんな病気で、どんな治療が行われているのかなど、専門的な医学のことをわかりやすく話され、がんについての理解が深まりました。

今後も地域のみなさまのお役に立つ病院を目指し、スタッフ一同頑張っていきますので応援宜しくお願ひいたします。来年も開催予定しておりますので、奮ってのご参加お待ちしております。

栄養相談コーナー

管理栄養士 桑木野里美

私たち栄養管理部は管理栄養士3名で相談に応じました。指導件数は12件で、内容は便秘が5件と一番多く、他に食事バランスや肥満、心疾患、大腸がん手術後の食事、食べやすい食事形態などさまざまでした。



便秘に関しては女性だけでなく男性の相談もあり、男女関係なく悩まる疾患になってきているなと感じました。水分摂取の重要性やシンバイオティクスなど食べ物の組み合わせ、食事バランスなど指導し、少しでもお役に立てていれば幸いです。

また、当院に入院されていた方もお見えになり、こうした形で退院後も支援することができうれしく思いました。

今回の講演会テーマは“がんについて”ということでしたが、さまざまな相談内容に対応できるよう資料やサンプル商品など多数準備していたので、慌てることなくスムーズに話を進めることができたのはよかったです。去年に比べると件数が少なかったことは少し残念でしたが、また機会があれば市民の皆様の健康や悩みにお答えできたらと思います。

ありがとうございました



平成28年度 コンシェルジュ、患者送迎バスアンケート結果

平成28年7月19日～7月25日の1週間、当院のコンシェルジュ、患者送迎バスについてのアンケートを実施致しました。外来患者様より解答頂きましたアンケート結果を下記のとおり集計致しましたのでご報告致します。

【対象期間】平成28年7月19日～25日

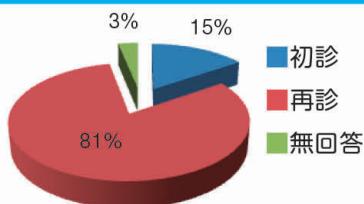
【配付】290枚

【回収】188枚(回収率65%)

コンシェルジュ アンケート結果

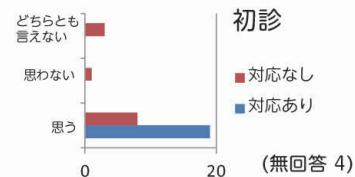
①本日の受診は初診、再診、どちらでしょうか？

初診	29
再診	153
無回答	6
(合計 188)	



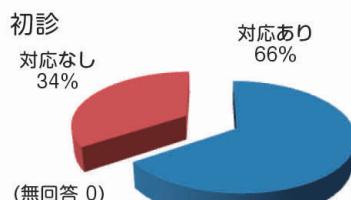
③コンシェルジュが配置されて良かったと思われますか？

初 診	対応あり	対応なし
思う	19	8
思わない	0	1
どちらとも言えない	0	3

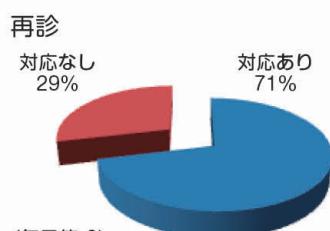


②コンシェルジュが対応させて頂いた事がありますか？

初 診
対応あり 19
対応なし 10
(無回答 0)



再 診
対応あり 109
対応なし 44
(無回答 6)



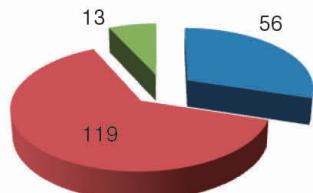
再 診	対応あり	対応なし
思う	104	25
思わない	1	1
どちらとも言えない	5	15



患者送迎バス アンケート結果

①患者送迎バスをご存じでしたか？

知っている	56
知らない	119
無回答	13



- 知っている
- 知らない
- 無回答



当院のコンシェルジュ、患者送迎バスのアンケートにご協力頂き、有難うございました。皆様から頂きましたご意見を参考と致しまして、より充実した患者様サービスの向上に努めて参りたいと思います。

最新MRI装置が導入され、 6ヶ月が経過しました

医療技術部 放射線課主任 秋葉 裕史



平成28年3月21日より最新の1.5T MRI装置「SIGNA Explorer(GE Healthcare社製)」が導入されました。

MRIの検査を体験した方なら分かると思いますが、MRIの欠点として

- ①検査中の音がうるさい
 - ②検査時間が長く、撮影部位を動かさない事が苦痛
- というイメージがあると思います。

今回、導入した最新MRI装置は、この欠点を可能な限り抑え、「より患者さんの身体にやさしい」装置となっています。

- ①検査中の音に対しては、3段階に音を調節する事が可能です。
- ②検査時間に対しては残念ながらあまり変化はありませんが、患者さんの動きを補正する事が可能になり、再撮影や体動により検査中止という事がなくなりました。

臨床診断に役立つ撮像として

- ①脳血流量をカラーマップする技術 3D ASL(Arterial Spin Labeling)
- ②高分解能画像をボリュームで撮像 Cube 2.0
- ③自然呼吸下での体動補正技術 Body Navigator
- ④造影剤を用いることなく、全身領域の血管撮像を可能とした Inhance Suite 等があり、非常に多くのアプリケーションが増え、今まで検査不可だった領域にも新たに取り組むことができ、当施設の臨床診断のレベルを次のステージに引き上げる事が可能な装置だと思っています。

当病院の新しいMRI装置の特徴を簡単に説明しました。

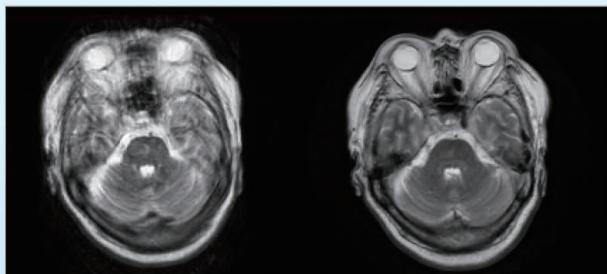
ここで、臨床事例を交えながら、6ヶ月使用して有用であった最新のアプリケーションについて説明します。

全身領域に対応した体動補正技術。

PROPELLER3.0

特長

- 患者さんが動いた場合でも、撮像時間を延長することなく任意断面の撮像が可能
- 拡散強調画像（DWI）と併用することで、歪みを最小限に抑えて撮像することができる

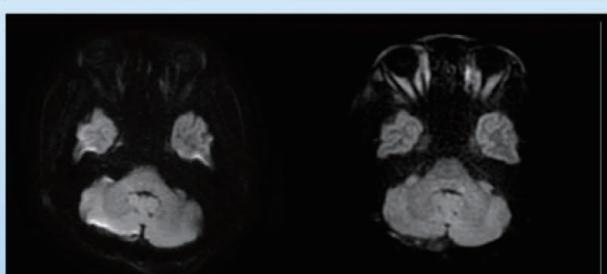


PROPELLER 臨床事例

(上段左) 体動があり診断不可画像

(上段右) 動きがある為に体動補正技術を追加した画像

動く患者さんをいくら固定しても逆効果です。体動補正技術を使うことで嫌がる固定をしなくてもきれいな画像が撮れます



(下段左) 開頭手術既往があり、金属によるアーチファクトがある

(下段右) 同一患者に歪補正技術を追加した画像により歪がなくなっている

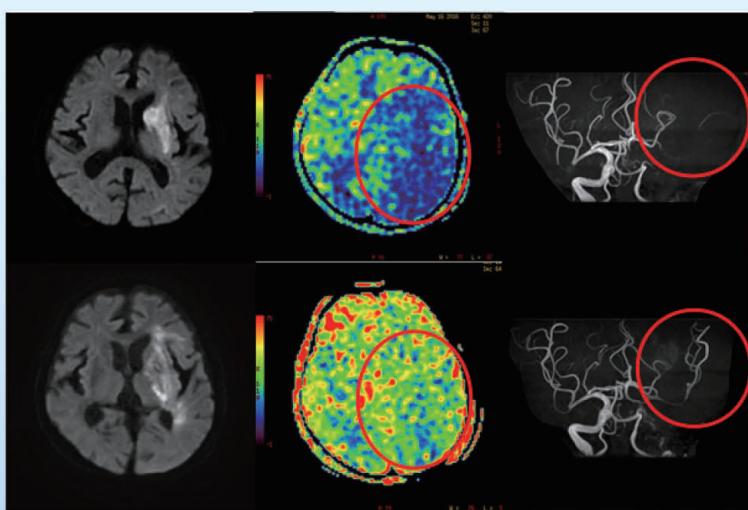
歪が出ている場所にもし脳梗塞があったとしたら、金属のアーチファクトがあるせいで、見逃されているかも…

造影剤を用いることなく、頭部の血流量評価が可能に。

3D ASL(Arterial Spin Labeling)

特長

- 造影剤を用いずに非侵襲的に脳灌流画像が数分の撮影で得られます
- 超急性期の脳梗塞の診断に威力を発揮します



3D ASL 臨床事例（急性期脳梗塞）

上段：発症直後（左から、DWI、脳灌流画像、頭部血管画像）

下段：治療後（左から、DWI、脳灌流画像、頭部血管画像）

発症直後、DWI画像からは脳梗塞巣は僅かだが（上段左）、脳灌流画像ではDWI画像と比べて広範囲に血流が落ちていることが確認できる。（上段中）

脳梗塞治療後、脳灌流画像で血流が戻っていることが確認でき（下段中）、脳血管画像でも血管の走行が確認できる。（下段右）

新人紹介

7月～9月までに私達の仲間となったスタッフをご紹介いたします。
どうぞよろしくお願いします。

新人さん
いらっしゃ~い



田中 美穂

回復リハビリ病棟
介護福祉士

7月より介護福祉士として勤務させて頂いています。日々努力して頑張っていきたいと思います。ご指導よろしくお願いします。



村松 カツエ

地域包括ケア病棟
リネン係

7月からリネン係として勤めさせていただけております。少しでも早く仕事を覚え、患者さんや皆さんのお手伝いができるように頑張ります。よろしくお願いします。



有村 亜佳子

4階西病棟
リネン係

7月からリネン係として勤務させていただきました。分からぬ事ばかりでご迷惑をかけると思いますが、日々学んでいきたいと思っておりますのでご指導よろしくお願い致します。



中村 光代

医師サポート室
医師事務作業補助者

7月から医師事務作業補助者として勤務する事になりました。分からぬ事も多く、ご迷惑をおかけするかと思いますが、宜しくお願い致します。



鶴長 佳織

3階東病棟
看護師

7月下旬より看護師として勤めさせていただけました。今まで経験したことのない分野での仕事となり、ご迷惑をおかけするかと思いますが、精一貫頑張ります。ご指導よろしくお願い致します。



外城 裕美

栄養管理部
管理栄養士

9月より入職させて頂きました。病院での勤務は初めてでご迷惑をおかけするかと思いますが、早く仕事や職場環境に慣れるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

看護部だより ひまわり

Vol.44



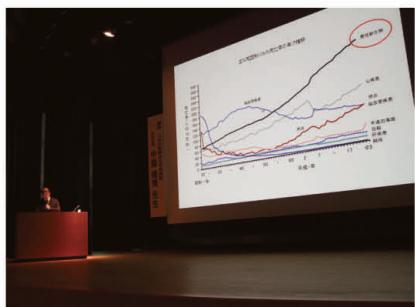
ミニナラティブ

4階西病棟 看護師 高原 美里

パーキンソン病の内服コントロールがうまくいかず、意識レベル低下により入院された患者さんの話です。入院直後は開眼もせず、会話もできませんでした。ご家族も心配しており面会時間中、付き添っていました。内服薬の調整が始まても意識レベルは改善せず、ご家族も一生懸命話かけたり、音楽をかけたりしていました。私も時間があれば患者さんの所に行き話をし、ご家族も交えて話をしていました。徐々にレベルの改善がみられ、はっきりと話が出来るようになりました。「昨日は休みだったんだね」と言われた日、私のことを覚えてくれていたんだと嬉しく思いました。ご家族が来院された時には必ず挨拶へ行き、夜間の状況などを話すようにしていました。笑顔での対応を心がけ、少しの変化も伝えるようにしました。「元気になってよかったです。おうちに帰ろう」などの言葉も聞かれます。これからも患者さんとご家族に寄り添って少しでも不安が軽減でき、前向きな言葉が聞けるような関わりを心がけていきたいです。

※ナラティブとは・・・「narrative」物語、叙述すること

市民公開講座



9月10日(土) 薩摩川内市国際交流センターにて、第4回市民公開講座を開催致しました。今回は2部構成で講演を行い、1部ではNPO法人がんサポートかごしま理事長の三好綾先生をお招きして「がんとともに生きる」についてご講演いただきました。また2部では、当院外科医長中園俊博医師より「知っておきたい胃がんのはなし」というテーマで講演があり、相談コーナーや講演会場に、市民の皆様をはじめ約120名の方が受講されました。次回も、当院市民公開講座に多くのご参加をお待ちしております。

職場体験



8月23日(火)～25日(木)の3日間、れいめい中学校2年生女子3名が当院で職場体験をしました。看護部での感染予防の手洗いや患者さんへの配膳・下膳の体験や当院保育所での保育体験、リハビリテーションの見学などをしました。当院の職場体験を通して、園児や患者さんとのコミュニケーションや礼儀作法など、働く上で必要なことを学ぶ機会にしてもらいたいと思います。

NEWS

Sendai Medical Association Hospital
July - September
2016



今月のスマイル

清掃ボランティア



9月20日(火)17:05より毎月2回行われるサービス向上委員会清掃ボランティアを実施しました。今回は台風16号が薩摩半島に接近した影響もあり、強風に飛ばされてきた街路樹の枝葉や資源ごみなど、病院敷地内と周辺を約20分かけて拾いました。

ちゅうりっぷ園運動会



9月17日(土)院内保育所の園庭にて、第24回ちゅうりっぷ園運動会が開催され、爽やかな秋晴れのもと園児達は今まで練習してきた沢山の競技を立派にやり遂げました。年少組さんでは、かけっこでコースを外れたり、ダンス中に立ち尽くす園児がいたりなど、保護者の方がヒヤヒヤしてしまう場面もありましたが、我が子やお友達の成長を感じられる感動の運動会になりました。

北薩がん医療ネットワーク



9月16日(金)19:00より当院2階会議室において、第23回北薩がん医療ネットワークが開催され、講演終了後ディスカッションも行われました。講演内容は以下の通りです。

- 『熊本地震災害支援にJRATスタッフとして参加して』
川内市医師会立市民病院
- 『地域がん診療連携拠点病院、入職3年目、医療ソーシャルワーカーの活動状況について』
済生会川内病院
- 『趣味活動を通したがん患者との関わり』
川内市医師会立市民病院
- 『ベシズマップ投与における蛋白尿発現時の腎機能および血压への影響の検討』
出水郡医師会広域医疗センター

第34回

身体に優しい健康レシピ

鮭のきのこあんかけ

エネルギー：123kcal、たんぱく質：11.8g、脂質：2.9g、食塩 1.4g

作り方

- ① 鮭は3~4等分に切り分ける。
- ② しめじは石づきを取り小房に分ける。しいたけは細切り、えのきは石づきをとり適当な長さに切る。
- ③ 鮭に片栗粉をつけ、フライパンに油をひいて焼く。
- ④ しめじ・しいたけ・えのきは、適当な大きさの鍋に入れて、調味料・水と一緒に煮立てる。
- ⑤ 火が通ったら水溶き片栗粉でとろみをつける。
- ⑥ 皿に鮭を盛り、上からきのこあんをかける。最後に三つ葉をのせる。



材料 (1人分)

生鮭	2切れ
片栗粉	適量
油	適量
しめじ	1/6袋
しいたけ	1枚
えのき	1/2袋
醤油	大さじ1/2
砂糖	大さじ1/2
酢	大さじ1/2
塩	少々
水	40cc
水溶き片栗粉	適量
三つ葉	適量

●秋の食材

食欲の秋という言葉があるように、秋は食欲が増し食事が美味しい季節です。食欲増加の理由としては、日照時間の変化や寒くなった影響で代謝が上昇すること、夏バテが回復することなどがあげられます。また秋刀魚や鮭など魚、きのこや栗、果物といった旬の食材が多いことも特徴です。

今回紹介するレシピは、鮭ときのこを使った秋らしいメニューです。鮭の特徴である身の鮮やかな色はアスタキサンチンという栄養成分で、抗酸化作用があり体の老化を防いだり肌をきれいにしたりする効果があるといわれています。また魚類に多く含まれるDHA（ドコサヘキサエン酸）には脳の働き向上させる効果やEPA（エイコサペンタエン酸）には血管を健康にする効果があるとされています。きのこ類は皆さんご存知の通り、食物繊維が豊富です。不溶性食物繊維が豊富で便通改善に役立ちます。また食物繊維はカロリーが低いので、きのこを使うことで料理のカロリーを抑えることができます。しいたけ特有のエリタデニンは血中コレステロールを下げる作用があり、鮭とともに動脈硬化予防が期待されます。調理の工夫として生の鮭や酢を使い減塩にも配慮しました。

きのこの食感が特徴的な一品です。秋の味覚を楽しみ、体によい栄養を補給しましょう。

管理栄養士 加藤 恵理

「ふるさと」は人の帰るべき場所であり、生きる基盤であると思う。「ふるさと」を否定することは、自分自身を否定すること。私のふるさと飯島。故郷を誇り、愛し続けていきたい。

今年はオリンピックイヤーであり、多くの選手が自國にメダルを持ち帰るため死力を尽くし、世界中の人々も自國の選手の勝利を願い手に汗握った。「愛国心」と聞くと、第二次大戦において戦犯国とされた日本人の中には、何かうしろめたさを感じる人もいる。自國を愛することのできない日本人。何と寂しいことだろう。オリンピックは日本人であるという誇りを感じさせてくれたようだ。

「ふるさと」は誰にとっても大切でかけがえないものであると思う。私は「ふるさと」という言葉を聞いたとき、ある一つのエピソードを思い出す。

大学生の時、水俣出身の友人を含む数人と会話をしていた。今となってはどのような会話の流れだったのか、友人の一人が「水俣といえば水俣病だよね」と言った。何の悪気もない一言。その一言に水俣出身の友人は突然涙を流した。友人は「水俣は本当に良いところなのに、誰もが水俣と聞くと水俣病としか思わない。それが悔しい。」と男泣きしていた。

故郷
総合リハビリテーション部
理学療法士

原崎雄志